

## おうちで楽しむまいぶん KAN 企画展

### 「明治記念館下張り文書からわかる庶民の暮らし」展

#### はじめに

朝日町の歴史を語る代表的な建物に、明治記念館があります。明治記念館は、加賀藩十村（とむら）伊東家の邸宅で、藩主（はんしゅ）の休泊施設である「本陣」（ほんじん）としても使われた建物です。大正5年に建物は町に寄贈され、往時（おうじ）の姿を残したまま長らく保存されていましたが、平成26年に移築・改修した際、壁の中から下張り文書が見つかりました。調べてみると、江戸時中期～明治時代前期の町や周辺地域のことが書かれた古文書であることがわかり、平成29年度から「下張り文書はがし体験教室」を開催し、調査・整理を行っています。

まいぶんKANでは、毎年の作業によってはがされた古文書を調査して、町の資料と合わせてみなさまに展示公開しています。古文書から広がる歴史のひとコマをお楽しみ下さい。

#### 【下張りをはがす作業風景】



#### 解説1 古文書 <sup>びるだん</sup> 蛭谷村の干しぜんまい



《翻刻》  
 御算用場奉行  
 一、貳貫目干せんまい  
 右新川郡蛭谷村之者共  
 右之通就申来候、  
 写相越之候条得  
 其意、本文之趣  
 申渡御請取立  
 可指出、且干せん  
 まい寄麗成  
 二入、当役所江指出  
 候得者、遂見分  
 金沢江可送遣候条  
 此段可申渡候、以上  
 丑  
 九月二日 三宅平助印  
 沼保村  
 次郎左衛門殿

蛭谷村とは、現在の朝日町蛭谷集落のことです。町をつらぬく小川という川の上流、右岸にあります。この地域では、対岸の羽入地区（はにゅう）とともに、ゼンマイとりが重要な生業（せいぎょう）の一つとなっていました。古文書には、蛭谷村の人々が干しぜんまいを献上（けんじょう）すると申し出ていることが書かれており、綺麗な吹（かます）に入れるように新川郡奉行所（にいかわこおりぶぎょうしょ）に指示されています。差し出す予定の二貫目（七・五kg）は、どのくらいの分量でしょうか？比較のために干しぜんまい25gを用意してみたら、ご飯茶わん山盛り1杯分くらいでした。この300倍となります。

昭和59年発行の『朝日町誌 文化編』によると、ゼンマイとりのシーズンは4月半ばから8月のお盆までで、その間で、多い人で二百貫（約750kg）を採取していたそうです。これを生で干しあげると、容量が一割くらいに減るそうです。昭和以前は生のまま干し上げていましたが、昭和以降は茹でてから干すようになりました。生で干しあげた方が香りがよかったということです。



吹（かます）：藁で作った容れもの

## 解説2 記録写真 羽入のゼンマイとり

(写真提供：青島幸男氏)



ゼンマイ小屋での写真

これはゼンマイ小屋でのゼンマイ採取の写真です。柱を数本立てただけの吹き抜けの簡素な小屋は、寝起きする場であり、採取したゼンマイを燻製（くんせい）加工するための作業場です。柱にかかっているのは【ゼンマイトリツツシ】。【ゼンマイス】の上にある【カガリ】が空になっているのは、ゼンマイを茹でている最中でしょうか。



【ムシロの上にあるのは採取したゼンマイと運搬具のカガリ】



ゼンマイ採りは命がけと言われます。採取地は、雪解けに合わせて標高をあげ、盆近くには朝日岳（標高付 2,418m）付近へと到達します。ゼンマイがよく生える【ゼンマイダマリ】は、【カガミ（湾曲した北向き斜面）】や、【ナデコケ（雪崩通過斜面）】など急な場所にあるので、左手で崖につかまり、右手で懐にゼンマイをいれながら採取します。このように両手が使えるように【ゼンマイトリツツシ】は考えられました。

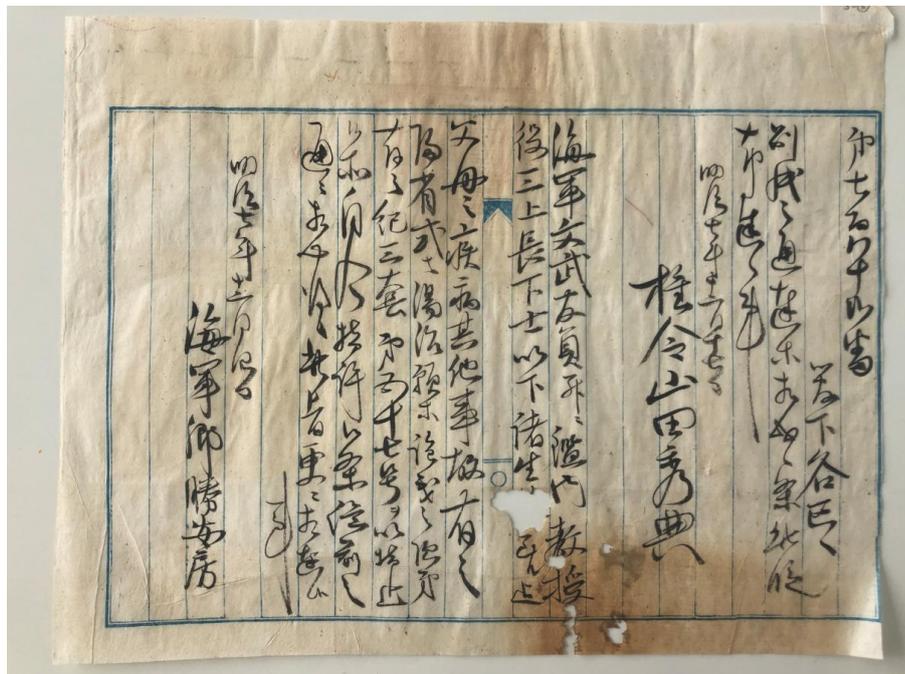
ゼンマイの干し場は、石をコの字型に積み重ね、その上に丸太を二本わたし、ゼンマイスを広げて作ったものです。夜は干し場の前で火加減を見ながら作業します。煙に悩まされるつらい仕事であったということです。



【ゼンマイトリツツレ】

資料を見ると、内側は左腕側だけアクで真っ黒になって、パリパリしています。アクの強いゼンマイを直接ふところに入れるためにこうなるのでしょう。

解説3 古文書 勝安房（勝海舟）名入り通達文



《翻刻》

第七百八十式番

管下各区へ

別紙之通達等相成候条、此段

布達候事

明治七年十二月十七日

権令 山田秀典

海軍文武官員并二艦内教授

役三上長下士以下諸生□□(從)(三)至ル迄

父母之疾病其他事故有之

帰省、或は湯治願等詮義之次第

有之紀三套第五十七号ヲ以指止

候所、自今指許候条従前之

通二相心得候、此旨更ニ相達候事

明治七年十二月四日

海軍卿 勝安房

署名の「勝安房」というのは勝海舟のことです。日付は明治七年十二月四日となっています。明治七年九月四日（記三套第五十七号）以降、海軍軍人以下、下士や海軍兵学寮（海軍兵学校の前身）の生徒に至るまで、海軍関係者の帰省や旅行等に制限がかかっていたのが解除されたことの通達です。この通達が出された前日は、軍隊の初の国外派遣となった台湾出兵の撤兵開始日ということから、台湾出兵に係る軍関係者の移動制限が出されていたと考えられます。

朝日町には直接関係がありませんが、こういった歴史上の人物の名前がでてくるのも面白いですね。

〔凡例・謝辞〕

- ・この解説は、令和2年3月7日（土）から朝日町図書館で開催中の「明治記念館下張り文書からわかる庶民の暮らし」展の展示解説をもとに、「おうちで楽しむまいぶんKAN展」用に作成しました。展示の企画製作はまいぶんKAN学芸員川端典子が行いました。
- ・古文書の解説は滑川市立博物館館長補佐（学芸員）近藤浩二氏にご協力いただきました。
- ・ゼンマイトリ写真は青島幸男氏に提供していただきました。
- ・青島幸男氏、長崎順一氏からゼンマイトリの聞き取りをさせていただきました。
- ・明治記念館下張り文書はがし体験教室では石川県文化財保存修復工房文化財修復士梶青華氏の指導を受け、多くの一般の方のご協力のもとで、下張り文書はがし作業を行いました。ご協力下さいましたみなさまに深く感謝申し上げます。
- ・この企画展は、調査段階から滑川市立博物館にご協力いただきました。深く感謝申し上げます。

**企画展・下張りはがしのお問い合わせ先**

朝日町埋蔵文化財保存活用施設まいぶんKAN

TEL 0765-83-0118

maibunkan@int.town.asahi.toyama.jp

富山新下新川郡朝日町不動堂214